

のれんの会計処理に関する国際会計基準審議会 (IASB) と米国財務会計基準審議会 (FASB) の連携強化に係るIOSCO声明(仮訳)

証券監督者国際機構 (IOSCO) は、証券監督当局の主要な国際機関であり、証券規制のグローバルな基準設定主体として認識されている。そのメンバーは、世界の資本市場の 95% 以上を規制しており、資本市場の監督並びに会計基準、監査基準及び開示規制の適用と執行を責務としている。IOSCO の目的は、投資家を保護し、公正かつ効率的で透明性の高い市場を維持し、システミックリスクに対処することである。会計基準を適用することにより、発行体は、関連する信頼性の高い情報を正確に提供し、投資家は十分な情報に基づいた投資判断を行うことが可能となる。

IOSCO は、常に、厳格かつ首尾一貫して適用される単一で高品質な会計基準を支持してきた。この見解は、G20 やその他の国際機関のリーダー達とも共有している。このことを念頭に置いて、我々は国際会計基準審議会 (IASB) と米国財務会計基準審議会 (FASB) がのれんの会計処理について互いに密接に協力し、この分野における IFRS と米国会計基準の整合性が維持または強化されることを奨励する。

我々は最近、IASB のディスカッション・ペーパー「企業結合-開示、のれん、減損」に対するコメント・レターを提出した。我々は、FASB もまた、のれんの会計処理に関する要求事項を見直そうとしていることを承知している。過去、IASB と FASB は、企業結合とのれんに関する基準の開発で協力し、高度なコンバージェンスを達成することによって、のれんの会計処理に関する投資家の理解及び国際的な財務諸表の比較可能性の向上に多大に貢献している。

我々は、のれんの会計処理に関して、米国会計基準の要求事項が、IFRS の要求事項と可能な限り一致している場合、IFRS と米国会計基準の下で作成された財務諸表の比較可能性が高くなると認識している。経験上、両基準設定主体が各自のプロジェクトを同様のタイムラインで協力的に作業を行うことで、コンバージェンスを達成する可能性が非常に高まる。この分野におけるコンバージェンスの維持と強化は、IASB と FASB にとって引き続き重要な検討事項であると認識している。

IOSCO は、IASB 及び FASB の基準設定プロセスの独立性を尊重しつつ、IASB 及び FASB との緊密な協力に引き続きコミットしていく。

(Note to the Editor は省略)

(以上)